

～新渡戸記念の～

『言葉の院外処方箋』

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第27回『「患者主体の医療」～『苦痛に対する思いやり』～』

オンラインセミナー（一般社団法人がんサポートナース主催、池袋に於いて）での、記念講演『病院と在宅の隙間を埋める存在とは』に招待された。

患者や家族は がんとともに生きていく上で、病気を治すことだけでなく、人とのつながりを感じ、尊厳を持って生きることを求めている。『他人の苦痛に対する思いやり』は、医療の根本であり、患者の視点に立った がん医療が求められる現代において「日本 Medical Village 学会」（2020年は、福岡県、2021は秋田県）は、立場を超えて集う「交流」の場でもあろう。「患者主体の医療」の基盤整備の一助となることが期待される。（1）医師・医療従事者は生涯の学徒である。（2）何故ならば、患者は最新・最良の診療を期待しているからである。（3）専門家でさえ、日々の努力を怠る時に、専門家とは言えなくなる。

下記の3項目は「医療者」のあり様ではなかろうか！

- （1）幅の広さ
- （2）弾力性に富む
- （3）洞察と識見のひらめき

今朝、「がん哲学外来さいわいカフェ in 茨城・筑西」代表の海老澤規子 氏から、心癒される写真が、送られてきた（画像）。ただただ感謝である。



マイナス × マイナスで"
プラスに転じる

出典「いい覚悟で生きる」樋野興夫 小学館



いのちより大切なもの
があると知れば
すべてのいのちが
愛おしくなる

2020年10月 🌱

出典「日めくり 人生を変える言葉の処方箋」樋野興夫 17